

佐 賀 大 学 美 術 館
事 業 報 告 及 び
自 己 点 検 ・ 評 価 報 告 書
令 和 5 年 度

令 和 7 年 3 月

佐 賀 大 学
美 術 館

目 次

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

概 要	・・・・・・・・・・・・・・・・
沿 革	・・・・・・・・・・・・・・・・
組 織 図	・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 令和5年度の活動

- 1) 展示記録(主催)
- 2) 展示記録(共催)
- 2) 展示記録(企画申請)
- 3) 職業体験
- 4) 掲載・見学・職員研修
- 5) 寄附
- 6) 新収蔵
- 7) 入館者一覧

II 自己点検・評価

- 1 令和5年度の主な活動に関する自己点検・評価
- 2 今後の課題等

III 外部評価及び内部評価

- 1 概要
- 2 評価者コメント一覧

I 佐賀大学美術館の現況及び特徴

概 要

平成 25 年 10 月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合 10 周年記念事業の一つとして開館。美術館と併せて整備された正門エリアは「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴し、門扉のない低い正門、そして、水平線が強調され、ガラス張りのファサード（正面）をもつ美術館から成る。そして、佐賀大学美術館は、より多くの人に総合大学である佐賀大学の魅力を知っていただくための情報発信の場として建設された。

平成 15 年の国立大学法人法の制定以来、国立大学はそれまで以上にそれぞれの特徴を打ち出し、存在意義を明確にしなければならなくなった。佐賀大学の特色や強みは何かと言われたとき、60 年以上の歴史を誇り、多くの優れた美術・工芸分野の教員、作家、デザイナーなどを輩出してきた美術・工芸教室の実績は地域に確たる歴史を刻んでいる。このような歴史と実績を背景とし、新生佐賀大学の 10 周年を記念する事業の一つとして、佐賀大学美術館建設はスタートした。総合大学であるにもかかわらず、博物館や資料館ではなく、美術館が建てられた理由もそこにある。

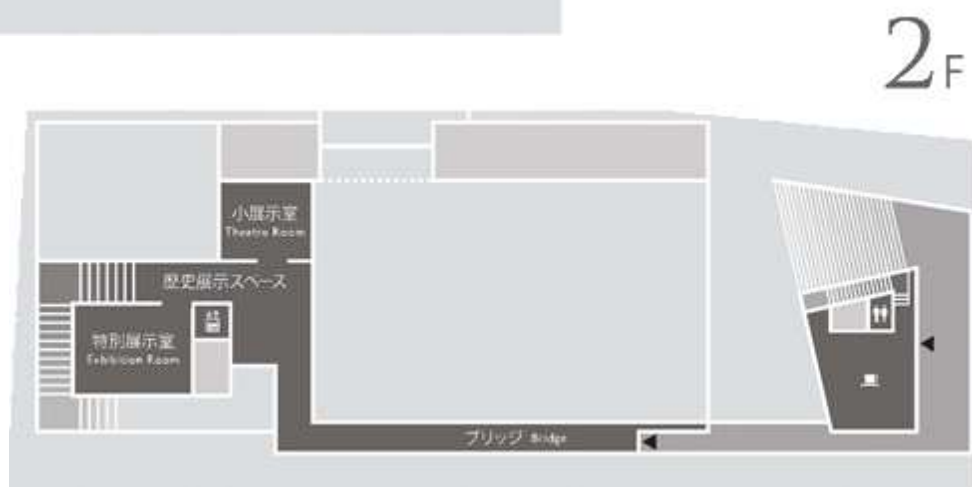
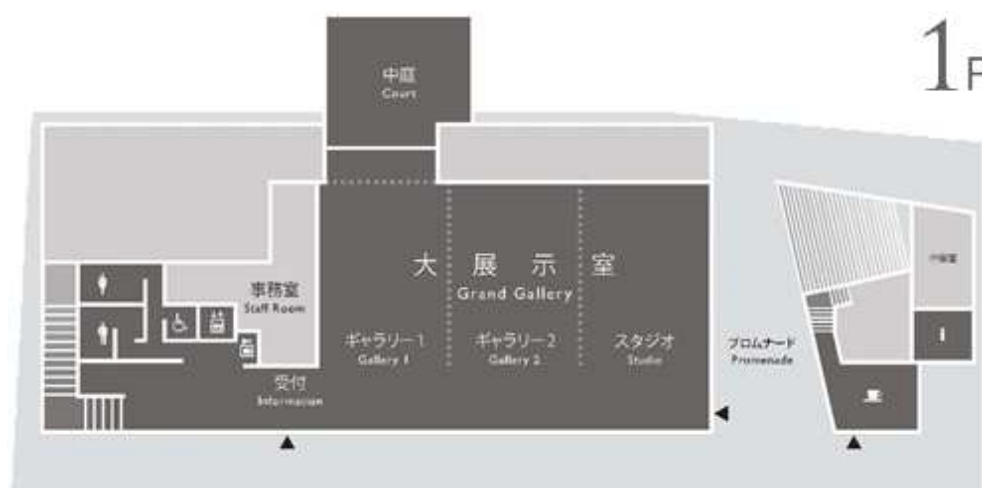
一方、佐賀大学は「COC（センター・オブ・コミュニティ）」を大学の理念として掲げている。すなわち、佐賀大学の大学としての大きな存在意義とは、地域貢献にある。佐賀大学は、佐賀大学美術館を通して地域の文化芸術の促進に貢献するとともに、佐賀大学美術館が地域の人々のコミュニケーションの場となる使命を有するのは、そのような理由があるからである。

佐賀大学美術館は、佐賀大学が所有する資料の公開や、特別教科（美術・工芸）教員養成課程以来の美術作品を収集・保管・展示するとともに、美術の新しい活動や表現を地域の人々とともに作り上げていく。また、佐賀大学美術館は、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していく。

博物館法に定められた美術館の機能である 1) 調査・研究 2) 資料の収集・保存・公開 3) 教育普及の柱を堅持しつつ、なおかつ佐賀大学美術館は、これらの機能に加えて大学の研究教育機関としての役割、すなわち、全学的な教育研究成果の発表、美術教育研究成果のアーカイブ化などを果たしていく。このような「社会教育の場」であるとともに、「大学の教育研究機関」でもあるという位置付けこそが佐賀大学美術館の特徴であり、学生の教育のために積極的にその場を提供し、また、美術館自体も博物館活動を通じて学生への教育を担う。

【館概要】

名称	佐賀大学美術館
所在地	佐賀市本庄町 1 番地
基本設計	佐賀大学
実施設計	(株)梓設計九州支社〔協力:(株)ワークヴィジョンズ〕
監理	佐賀大学環境施設部
施工	建築:金子建設(株) 電気:(株)佐電工 機械:(株)九電工
構造	鉄骨造・地上 2 階建
延床面積	1,502 m ²
展示面積	462 m ² ギャラリー1 106 m ² ギャラリー2 106 m ² スタジオ 111 m ² 特別展示室 48 m ² 小展示室 34 m ² 歴史展示スペース 57 m ²
その他	プロムナード 中庭 ブリッジ
設備	トイレ 多目的トイレ ロッカー



【沿革】

2011 年 1 月 4 日	学長年頭挨拶で美術館設置計画を発表
6 月 8 日	佐賀大学役員会にて美術館設置諮問委員会からの答申書を報告。 美術館の設置を審議・了承。同時に 3WG(設置募金、利用、建設)についても報告
12 月 20 日	美術館基本設計建設コンサルタント選定委員会で基本設計コンサルタント選定
2012 年 2 月 22 日	佐賀大学役員会にて基本設計のイメージを説明、募金趣意書の作成を提案・了承
5 月 14 日	基本設計納入
12 月 29 日	美術館実施設計終了
2013 年 2 月 14 日	新営工事起工式
6 月 26 日	美術館規則、美術館運営委員会規定制定
8 月 30 日	美術館建設工事竣工
9 月 28 日	佐賀大学統合 10 周年記念式典・佐賀大学美術館開館記念式典
10 月 2 日	一般公開開始
2014 年 10 月 24 日	入館者 5 万人達成
2015 年 1 月 22 日	第 18 回佐賀市景観賞受賞
2016 年 2 月 19 日	入館者 10 万人達成
2018 年 12 月 8 日	入館者 20 万人達成
2020 年 12 月 2 日	入館者 25 万人達成
2023 年 9 月 8 日	佐賀大学美術館開館 10 周年記念式典
2023 年 11 月 24 日	入館者数 30 万人達成

[設立主旨]

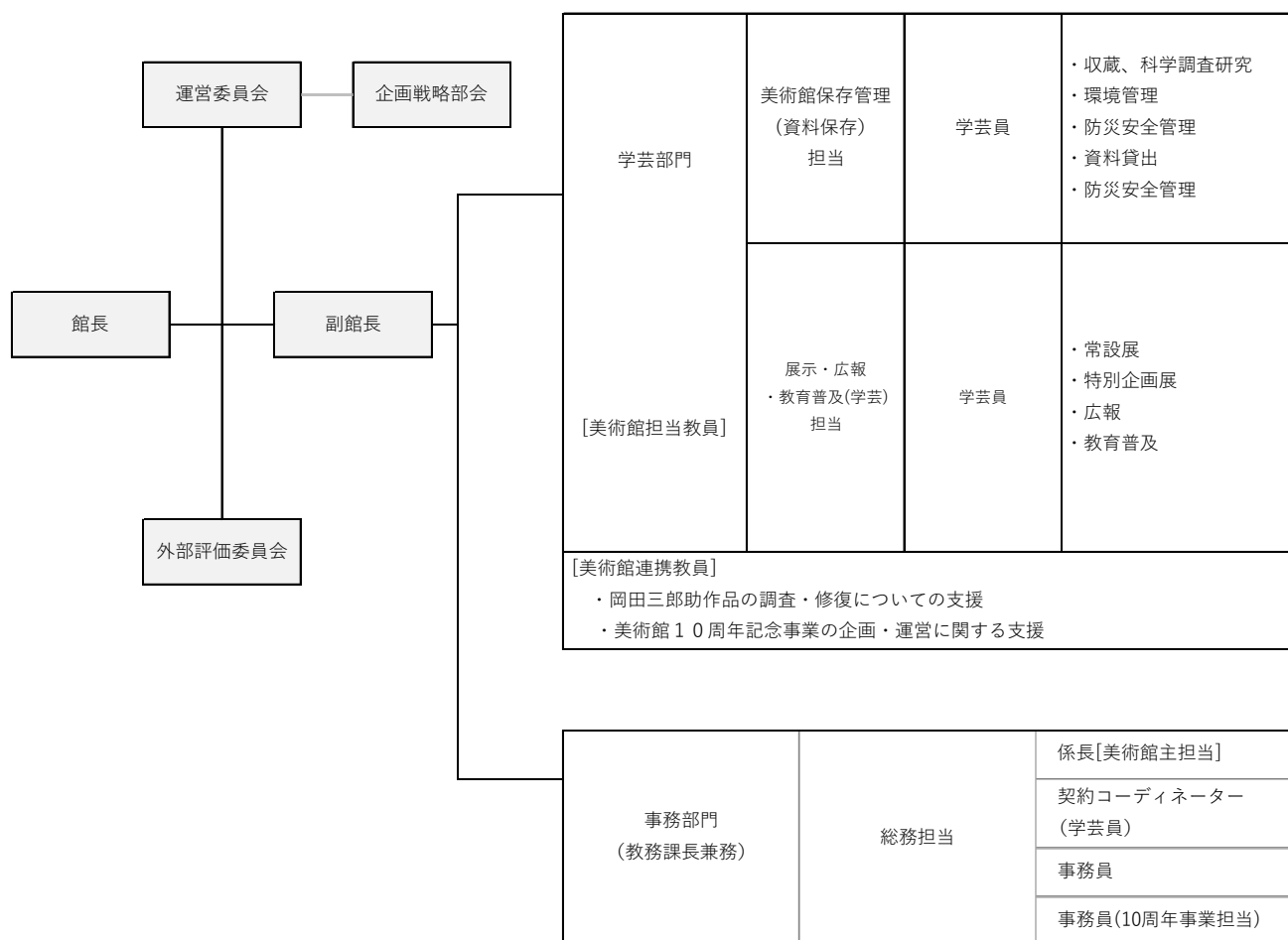
2013年10月、旧佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年記念事業として佐賀大学美術館は誕生しました。美術館と、併せて整備された正門エリアは、「地域に開かれた大学」という佐賀大学の理念を象徴するものです。美術館は、総合大学である佐賀大学の魅力を多方面に向けて、より多くの人に知っていただくための情報発信源として活用されています。

[活動目的]

佐賀大学が所有する資料や、美術・工芸に関連する作品を収集・保管・展示するとともに、文化芸術の新しい活動や表現を地域の方々とともに作り上げ、総合大学が生み出すさまざまな研究成果を周知・公開していきます。

〔組織図〕

佐賀大学美術館 組織図



[職員]

館長	渡 孝 則
副館長	徳 安 和 博
係長	黒 木 幸 代
契約コーディネーター (学芸員)	五 十 嵐 純 (2024年2月1日～)
事務員	牧 野 恵莉聖
(2023年11月1日～2024年3月31日)	
事務補佐員(学芸員)	見 藤 素 子
事務補佐員	吉 丸 マチ子
事務補佐員	樺 山 朋 子

[企画戦略部会委員]

リーダー	理事	渡	孝	則	
委員	教授	徳	安	和	博
委員	准教授	花	田	伸	一
委員	准教授	藤	井	康	隆
委員	学務部長	高	橋	かおり	
委員	係長	黒	木	幸	代
委員	学芸員	五	十	嵐	純
委員	学芸員	見	藤	素	子

美術館担当教員	藤 井 康 隆
美術館連携教員	石 井 美 恵
美術館連携教員	花 田 伸 一

[運営委員]

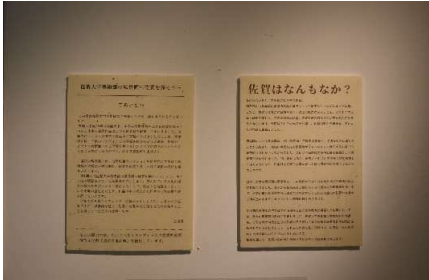
委員長(館長)	理事	渡 孝 則	
副委員長	理事	石 田 雄 三	(～2023 年 9 月 30 日)
副委員長(副館長)	教授	徳 安 和 博	
副委員長	学務部長	高 橋 かおり	(2023 年 10 月 1 日～)
委員	理事	山 下 宗 利	
委員	教授	栗 山 裕 至	
委員	准教授	鳥 谷 さやか	(～2023 年 9 月 30 日)
委員	准教授	井 川 健	(2023 年 10 月 1 日～)
委員	准教授	谷 口 みゆき	
委員	教授	山 田 小 織	
委員	教授	佐 藤 和 也	(～2023 年 9 月 30 日)
委員	教授	橘 基	(2023 年 10 月 1 日～)
委員	准教授	吉 賀 豊 司	(～2023 年 9 月 30 日)
委員	准教授	近 藤 文 義	(2023 年 10 月 1 日～)
委員	学務部長	高 橋 かおり	(～2023 年 9 月 30 日)
委員	佐賀大学同窓会長	水 田 和 彦	
委員	財務部長	神 達 進	

2024 年 3 月 1 日現在

○ 令和5年度の活動

1 展示記録(主催展) 令和5年度

佐賀大学美術館

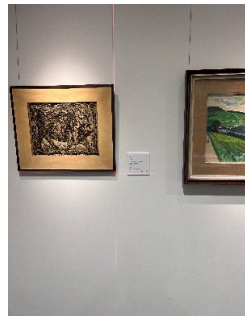
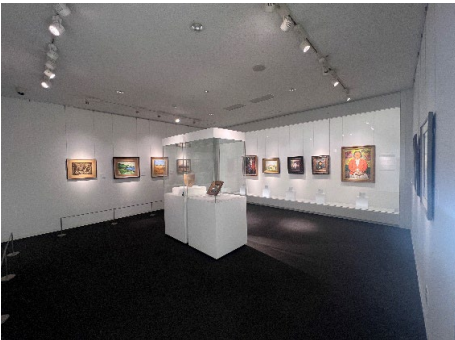
展覧会名	常設展示第1期「佐賀大学美術館の風景画～佐賀を探そう～」	
展覧会概要	開館10周年を迎え、常設展では本美術館のコレクションのうち、従来展示頻度の少なかった秘蔵ともいえる作品を中心に展示を行った。 第1期では当館収蔵品のうち風景画を選出。作品とともに、描かれた土地の現在の様子を写真で掲示し、その土地にまつわる歴史・民俗を紹介した。また、来館者の参加型体験コーナーも設けた。	
会期	2023年4月4日（火）～7月23日（日）	
開館日数	96日間	
会場	特別展示室	
展示構成	13点	
入館者数	4,469人	
印刷物	外看板、目録	
展示写真		
		

展示写真

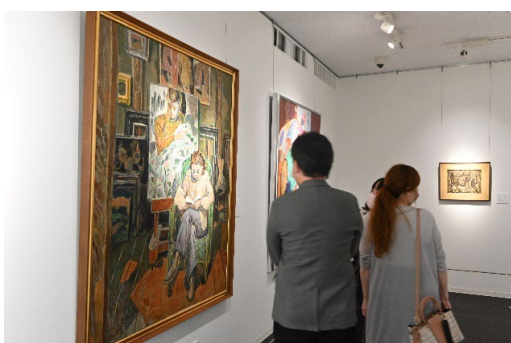


出品リスト

No.	作品名	作家名	素材	制作年	所蔵
1	ほりばた(公会堂と文化館)	久富 邦夫	油彩・板	1951	佐賀大学美術館蔵
2	呼子(初秋)	久富 邦夫	油彩・キャンヴァス ボード	1956	佐賀大学美術館蔵
3	商工会館	若林 景光	油彩・キャンヴァス	1957	佐賀大学美術館蔵
4	古湯雄渚	田中 宗一	水彩・紙	1961	佐賀大学美術館蔵
5	古湯の岩渚(熊の川溪谷)	田中 宗一	水彩・紙	1964	佐賀大学美術館蔵
6	川上の風景	若林 景光	油彩・キャンヴァス	1966	佐賀大学美術館蔵
7	入り江の教会(天草、崎津風景)	深草 廣平	油彩・キャンヴァス	1980	佐賀大学美術館蔵
8	雲仙	納富 進	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
9	阿蘇早春	手島 貢	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
10	唐津城	小杉 燮太	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学蔵
11	鯨の門	山田 直行	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学蔵
12	有明の朝	金子 剛	水彩・和紙	不明	佐賀大学蔵
13	田舎風景	上瀧 泰嗣	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学蔵

展覧会名	常設展示第2期「佐賀大学美術館のコレクション大集合」
展覧会概要	第2期では10周年記念展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー」の開催に際して、過去から現在に至るまで約100年にわたる佐賀県・佐賀大学の美術教育史の歩みを振り返る展示を行った。 
会期	2023年8月3日(木)～2023年10月31日(火) 2023年11月9日(木)～2023年11月26日(日)
開館日数	89日間
会場	特別展示室
展示構成	16点
入館者数	8,396人
印刷物	外看板、目録
展示写真	   

展示写真



出品リスト

No.	作品名	作家名	素材	制作年	所蔵
1	麦秋	久富 邦夫	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
2	夏の岬	納富 進	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
3	伊羅保壺	瀧 一夫	陶器	不明	佐賀大学美術館蔵
4	蝶(空の蝶)	海老原 喜之助	リトグラフ・紙	1956年	佐賀大学美術館蔵
5	H嬢像	中西 利雄	水彩・紙	1943年	佐賀大学美術館蔵
6	構成2	佐口 七朗	ラムダプリント	不明	佐賀大学美術館蔵
7	牛	下川 都一朗	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
8	本栖高原	北嶋 兵一	油彩・キャンヴァス	1959年	佐賀大学美術館蔵
9	画室にて	石本 秀雄	油彩・キャンヴァス	1951年	佐賀大学美術館蔵
10	祭りの日	久富 邦夫	油彩・キャンヴァス	1974年	佐賀大学美術館蔵
11	衣を与う	海老原 喜之助	油彩・キャンヴァス	1956年	佐賀大学美術館蔵
12	若き娘の顔	岡田 三郎助	油彩・キャンヴァス	1913年	佐賀大学美術館蔵
13	婦人像	斎藤 与里	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
14	須磨初秋	辻 永	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
15	台湾娘	藤島 武二	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
16	久富君像	太宰 治	油彩・キャンバスボード	不明	佐賀大学美術館蔵

展覧会名	常設展示第3期「佐賀大学美術館の資料・アーカイヴ」	
展覧会概要	10周年企画の最後を締めくくる常設展第3期では、本美術館開館初期の2015年頃までに収蔵した作品を中心に公開。本学ゆかりの作家による作品を紹介した。	
会期	2023年12月22日（金）～2024年3月24日（日）	
開館日数	69日間	
会場	特別展示室	
展示構成	11点	
入館者数	6,379人	
印刷物	外看板、目録	
展示写真		
		
展示写真		
		



出品リスト

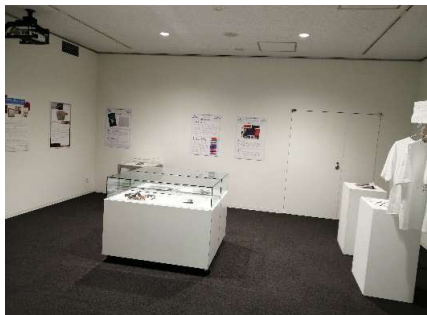
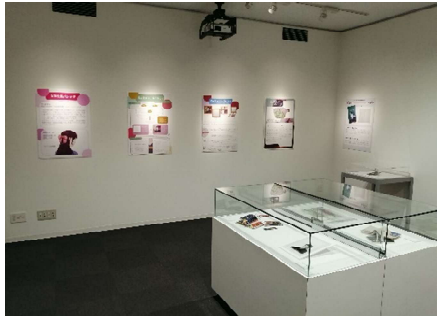
No.	作品名	作家名	素材	制作年	所蔵
1	裸婦	岩永 京吉	岩絵具・紙	1963	佐賀大学美術館蔵
2	オーバーの女	石本 秀雄	油彩・キャンヴァス	1960	佐賀大学美術館蔵
3	パラグアイの農家	小野 正人	油彩・キャンヴァス	1962	佐賀大学美術館蔵
4	金盞花	小野正人	油彩・キャンヴァス	1960	佐賀大学美術館蔵
5	あじさい	古瀬 虎麓	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
6	燈火小閑	宮地 亨	油彩・キャンヴァス	1965	佐賀大学美術館蔵
7	壱岐	宮地 亨	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
8	夏の果物	村岡 平蔵	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
9	西熱海	村岡 平蔵	油彩・キャンヴァス	不明	佐賀大学美術館蔵
10	牡丹	田中 宗一	水彩・紙	1969	佐賀大学美術館蔵
11	紅葉	田中 宗一	水彩・紙	1970	佐賀大学美術館蔵

展覧会名	チラシ・ポスターで紐解く佐賀大学美術館10年史	
展覧会概要	開館から10年にわたる歩みを振り返る展示を行った。当館2013年10月から2023年3月までに開催された主催展のポスターやチラシを一挙に公開した。	 チラシ・ポスターで紐解く 佐賀大学美術館10年史
会期	2023年4月11日(火)～2023年6月25日(日)	
開館日数	66日間	
会場	ギャラリー1	
展示構成	パネル55点	
入館者数	3,186人	
展示写真		
		

展覧会名	展示ができるまで vol.2	
展覧会概要	2022年度開催の「展示ができるまで」を発展させた展示を行った。リバイバル展示をおこなうとともに、これからの美術館に焦点をあてた。  展示ができるまで vol.2 会期：令和5年4月11日（火）～ 令和5年6月25日（日） 展覧替え 6月26日より2期 会場：佐賀大学美術館1階 ギャラリー2	
会期	2023年4月11日（火）～ 2023年6月25日（	
開館日数	66日間	
会場	ギャラリー 2	
入館者数	3,186人	
展示写真		

展覧会名	写真で見る佐賀大学	
展覧会概要	佐賀大学の前身である佐賀県師範学校、佐賀県女子師範学校、佐賀青年師範学校、旧制佐賀高等学校、そして佐賀大学設立期の写真やパネルを展示。この地に集った「昔の学生」の姿を紹介した。	
会期	2023年4月11日（火）～ 2023年6月25日（日）	
開館日数	66日間	
会場	歴史展示スペース	
協力	佐賀大学同窓会	
展示構成	パネル6点 古写真24点（定期的に入れ替え）	
入館者数	3,186人	
展示写真		
		

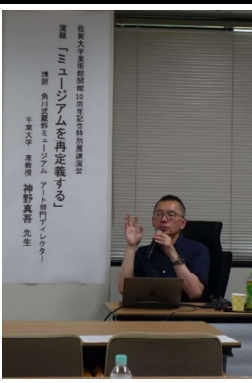
番号	展示資料 内約	所蔵先
1	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 教官集合写真/20-1-18	臼杵市教育委員会
2	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 十五畷橋/20-1-21	臼杵市教育委員会
3	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 十五畷橋/20-1-22	臼杵市教育委員会
4	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 学生たち/20-1-23	臼杵市教育委員会
5	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 学生たち/20-1-24	臼杵市教育委員会
6	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 授業風景/20-1-30	臼杵市教育委員会
7	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 学生たち/20-1-36	臼杵市教育委員会
8	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 佐高正門/20-1-37	臼杵市教育委員会
9	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 学生たちとフレンツェル先生の娘さんたち/20-1-44	臼杵市教育委員会
10	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 航空写真/20-1-75	臼杵市教育委員会
11	臼杵市教育委員会 旧制佐賀高校関連写真 航空写真/20-6	臼杵市教育委員会
12-84	古写真	佐賀大学同窓会

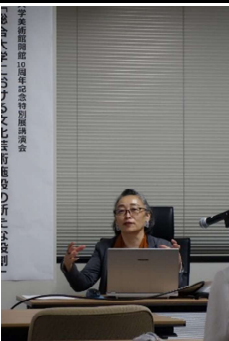
展覧会名	ミュージアムグッズ企画プロジェクト展 SUAM's Idea-日常×Museum Design-		
展覧会概要	ミュージアムグッズは、単なる記念品ではなく、ブランディングや集客、文化財への体感的な理解や愛着などをミュージアムや地域にもたらす効果を期待できるツールであるため、ミュージアム・マネジメントの一部として重要である。 本展では、芸術地域デザイン学部藤井康隆准教授のゼミと共同で、佐賀大学美術館の広報や来館者誘導、地域ブランディングに貢献することをテーマとし、博物館学を学ぶ学生が考案したミュージアムグッズの試作品や企画案を展示・発表した。		
会期	2023年7月25日（火）～ 8月27日（日）		
開館日数	24日間		
会場	小展示室		
展示構成	21点		
入館者数	3,024人		
展示写真	   		

SUAM's Idea 一日常 × Museum
Design— 出品リスト

	作品名	制作・創案者	素材	制作年
1	女学生風バレッタ	今村 和音	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
2	エイジングケア化粧水(岡田三郎助『若き娘の顔』限定パッケージ)	岡本 慧根	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
3	アイシャドウパレット(岡田三郎助『若き娘の顔』カラー)	神戸 愛心	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
4	サニタリーポーチ(influenced by 岡田三郎助『若き娘の顔』)	杉山 伊玖海	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
5	MONOUGE NOTEBOOK 野帳 × 『若き娘の顔』	辻 七望	上質紙、表紙 紙クロス貼り	2023年
6	太宰インク	畠山 志穂	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
7	太宰ブックカバー	畠山 志穂	綿・麻キナリ布	2023年
8	太宰ワールドで本を(ブックカバー・しおり)	吉川 らら	上質紙	2023年
9	若き娘の下敷き	津留崎 七虹	PET	2023年
10	表紙カスタムノート	古川 咲	PVC・上質紙	2023年
11	HISATOMIKUN ステッカー	宮脇 真由	PET	2023年
12	SUAM Tシャツ -Chrome, Line	宮脇 真由	綿	2023年
13	ヒサトミくんTシャツ	山崎 奏音	綿	2023年
14	ワカキムスメTシャツ	山崎 奏音	綿	2023年
15	HISATOMI トートバッグ	宮脇 真由	綿・麻キナリ布	2023年
16	HISATOMI カードホルダー	宮脇 真由	PET・ステンレス	2023年
17	絵になる付箋	津留崎 七虹	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
18	付箋(久富君像)	山崎 奏音	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
19	付箋(若き娘の顔)	山崎 奏音	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
20	文豪になれるメモ帳	古川 咲	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年
21	久富君ブックカバー	高橋 美羽	企画アイデア・商品イメージのパネル展示(実物制作物なし)	2023年

事業名	佐賀大学美術館開館10周年記念 トークシリーズ「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」
概要	開館10周年を記念し、総合大学による地域に開かれた美術館としての記念事業を実施。事業は二つの部門から構成され、一つ目のトークシリーズ「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」では大学や美術館・博物館から専門家を招き、芸術と地域を視野に入れた「美術館×博物館」の新たな活動領域を巡る講演・討論会（全8回）を開催した。 
会期	2023年6月10日（土）～9月2日（土）
会場	佐賀大学教育学部1号館多目的室 佐賀大学教養教育2号館2109AL室
協力	佐賀大学芸術地域デザイン学部
印刷物	チラシ（A4、4000部）

講演会名	第1回「分野を横断する大学ミュージアム」	
講演会概要	講師：加藤幸治（武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授、武蔵野美術大学美術館・図書館副館長） 司会：藤井康隆（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：6月10日（土）14:00～16:00 会場：佐賀大学教育学部1号館多目的室 参加：24人	 
講演会名	第2回「ミュージアムを再定義する」	
講演会概要	講師：神野真吾（千葉大学准教授、角川武蔵野ミュージアムアート部門ディレクター） 司会：花田伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：6月24日（土）14:00～16:00 会場：佐賀大学教育学部1号館多目的室 参加：19人	 

講演会名	第3回「総合大学における文化芸術施設の新たな役割」	
講演会概要	講師：渡部葉子（慶應義塾大学アート・センター教授/キュレーター、慶應義塾ミュージアム・コモンス副機構長） 司会：藤井康隆（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：7月8日（土）14:00～16:00 会場：佐賀大学教育学部1号館多目的室 参加：20人	 
講演会名	第4回「大学ミュージアムと地域の関わり」	
講演会概要	講師：三島美佐子（九州大学総合研究博物館教授）/藤浩志（美術家、秋田公立美術大学教授、秋田市文化創造館館長） 日時：7月15日（土）14:00～17:00 14:00～15:00 三島美佐子講演 15:00～16:00 藤浩志講演 16:00～17:00 トークセッション 司会：花田伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授）/見藤素子（佐賀大学美術館学芸員） 日時：7月15日（土）14:00～17:00 会場：佐賀大学教育学部1号館多目的室 参加：16人	 

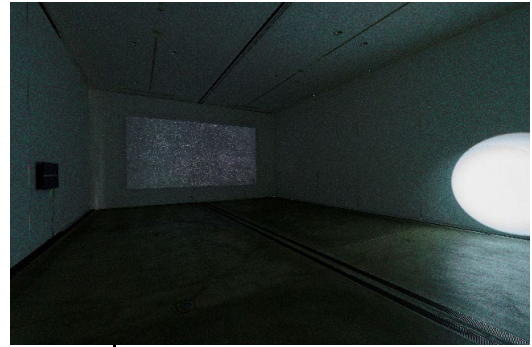
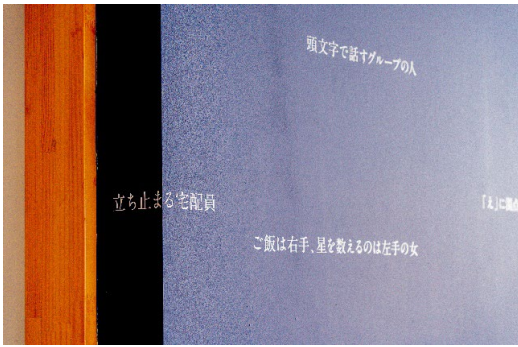
講演会名	第5回「歴史と人と地域をつなぐ博物館」	
講演会概要	講師：西聡子（市原歴史博物館学芸員（日本近世史専門）） 司会：藤井康隆（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：7月22日（土）14:00～16:00 会場：佐賀大学教育学部1号館多目的室 参加：22人	 
講演会概要	講師：宮本晶朗（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授（文化財保存修復研究センター研究員を兼務）） 司会：見藤素子（佐賀大学美術館学芸員） 日時：8月20日（日）14:00～16:00 会場：佐賀大学教養教育2号館2109AL室 参加：15人	 

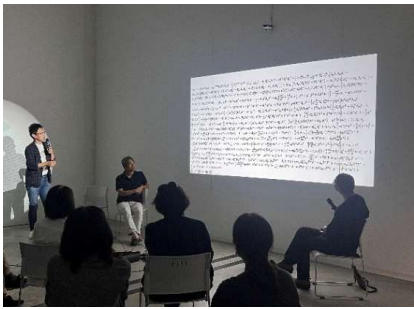
講演会名	第7回「市民とミュージアムをつなぐ」	
講演会概要	講師：西澤真樹子（認定NPO法人大阪自然史センター職員、大阪市立自然史博物館外来研究員、てこぼこさんとはくぶつかん副代表、なにわホネホネ団団長） 司会：見藤素子（佐賀大学美術館学芸員） 日時：8月26日（土）14:00～16:00 会場：佐賀大学教養教育2号館2109AL室 参加：10人	
講演会名	第8回「佐賀の地域資源とミュージアム」	
講演会概要	講師：藤井直紀(生物海洋学研究者（クラゲ研究者）)/亀井裕介（やながわ有明海水族館館長、佐賀大学農学部生） 日時：9月2日（土）14:00～17:00 14:00～15:00 亀井裕介講演 15:00～16:00 藤井直紀講演 16:00～17:00 トークセッション 司会：花田伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授）/見藤素子（佐賀大学美術館学芸員） 会場：佐賀大学教養教育2号館2109AL室 参加：15人	

講演会名	トークイベント「10年後の大学美術館に向けて」	
講演会概要	トークシリーズ「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」を振り返り、美術館の10年後を考えるためのトークイベントが開催された。 日時：10月21日（土）14:00～15:30 講師：花田伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授）/藤井康隆（佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授）/見藤素子（佐賀大学美術館学芸員） 会場：ギャラリー 1 参加：15人	

展覧会名	佐賀大学美術館開館10周年記念 響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー
展覧会概要	開館10周年記念事業二つ目は佐賀大学美術館開館10周年記念特別展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりーArt of Resonance - Decade Session for Our Future-」と題して、総合大学の美術館であることを活かし、学内で美術の専門家と他分野の専門家とで4組のペアを作り、グループ展を行った。「美術×物理学」「美術×心理学」「美術×哲学」「美術×民俗学」との掛け合わせから従来にない新たな表現活動の在り方を模索した。 
会期	2023年9月9日(土)～10月22日(日)
開館日数	38日間
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、旧カフェスペース、中庭
主催	佐賀大学美術館
協力	佐賀大学美術館芸術地域デザイン学部
展示構成	14点
入館者数	2,513人
印刷物	外看板、チラシ(A4、8000部)ポスター(B2、300部)、ハンドアウト
関連イベント	美術館鑑賞アプリ「あとみる」試用イベント
内容	佐賀大学芸術地域デザイン学部藤井研究室と地元IT企業の佐賀電算センターとの共同制作により作られた、美術館鑑賞アプリ「あとみる」の試用イベント。 日時 10月21日(土) 15:30～ 会場 ギャラリー1 参加者数 15人 アプリ監修者：藤井康隆(佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授) アプリ開発企画：佐賀電算センター/川浪綾乃(佐賀大学芸術地域デザイン学部生)/畠山志穂(佐賀大学芸術地域デザイン学部生)/山崎奏音(佐賀大学芸術地域デザイン学部生) 協力：花田伸一(佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授)

展示写真



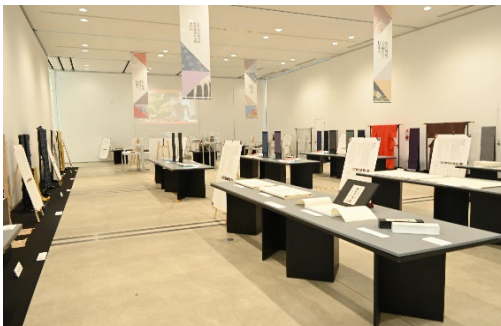
イベント名	トークイベント「宇宙のはじまり、アートのはじまり」	
概要	講師：柳健司（美術家/佐賀大学地域芸術デザイン学部芸術表現コース教授） 橋基（物理学者/佐賀大学理工学部理工学科物理学部門教授） 司会：花田伸一（キュレーター/佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：2023年9月10日（日）14:00～16:00 会場：ギャラリー 2 参加：29人	
イベント名	トークイベント「嘉瀬川にまつわる石の物語」	
概要	講師：阿部浩之（美術家/佐賀大学地域芸術デザイン学部地域デザインコース准教授） 藤村美穂（農村社会学者/佐賀大学農学部生物資源科学科国際・地域マネジメントコース教授） 司会：花田伸一（キュレーター/佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：2023年10月1日（日）14:00～16:00 会場：ギャラリー 1 参加：22人	
イベント名	トークイベント「絵画と哲学、モノとコトバ、コンドウ・ゴトウ」	
概要	講師：近藤恵介（画家/佐賀大学地域芸術デザイン学部芸術表現コース准教授） 後藤正英（哲学者/佐賀大学教育学部学校教育課程教授） 司会：花田伸一（キュレーター/佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：2023年10月9日（月）14:00～16:00 会場：スタジオ 参加：62人	
イベント名	ワークショップ「あなたと固有名詞を持たぬ者たち（仮）」	
概要	講師：土屋貴哉（美術家/佐賀大学地域芸術デザイン学部地域デザインコース准教授） 村久保雅孝（心理学者/佐賀大学医学部看護学科統合基礎看護学講座准教授） 司会：花田伸一（キュレーター/佐賀大学芸術地域デザイン学部地域デザインコース准教授） 日時：2023年10月15日（日）14:00～17:00 会場：旧カフェスペース 参加：34人	

出品リスト

	作品名	作家名	素材	制作年
1	石の話—もともとの名前に近づくために #1	阿部浩之 藤村美穂	凸版技法による版画・アクリル絵の具・インクジェットプリント など	2023
2	素粒子は踊る	柳健司 橋基	映像（エンドレス）	2023
3	Untitled—揺らぎ	柳健司 橋基	映像（エンドレス）	2023
4	Base of The World	柳健司 橋基	映像（エンドレス）	2023
5	ひとときの絵画	近藤恵介	ペン・雅邦紙	2023
6	引用のテーブル	近藤恵介 後藤正英	岩絵具・水干・具墨・膠・ペン・鳥の子紙・雅邦紙・糊	2023
7	私とその状況（絵画の中で/へ）	近藤恵介	岩絵具・水干・膠・墨・ペン・パネルに鳥の子紙	2012
8	私とその状況/卓上の絵画（三度目の春）	近藤恵介	岩絵具・水干・膠・墨・ペン・パネルに鳥の子紙・コラージュ・糊	2022
9	私とその状況（絵画の手と手）	近藤恵介	岩絵具・水干・膠・墨・パネルに鳥の子紙・コラージュ・糊	2022
10	ひとときの絵画	近藤恵介	岩絵具・水干・膠・ペン・鳥の子紙・雅邦紙など	2023
11	ひと時の絵画—これまでの紙片	近藤恵介	岩絵具・水干・膠・ペン・鳥の子紙・雅邦紙	2017-2023
12	ひとときの絵画	近藤恵介	墨・棒絵具・鳥の子紙	2023
13	ひとときの絵画	近藤恵介	墨・鳥の子紙・岩絵の具	2023
14	ひとときの絵画	近藤恵介	染料・絹・岩絵の具・水干・膠・墨・雅邦紙・糊	2023
15	引用集	近藤恵介 後藤正英	コピー紙（A3）12枚・コピー紙（A4）1枚	2023
16	後藤氏像	近藤恵介	墨・具墨・膠・紙片のコラージュ・雅邦紙	2023
17	固有名詞を持たぬ者たち（佐賀大学美術館）	土屋貴哉 村久保雅孝	文字	2023
18	Unnamed	土屋貴哉 村久保雅孝	アクリル・木	2023
19	固有名詞を持たぬ者たち—振り出しに戻った人	土屋貴哉 村久保雅孝	鉛・木製パネル	2023
20	固有名詞を持たぬ者たち—薄目あけて隠れる子	土屋貴哉 村久保雅孝	鉛・木製パネル	2023
21	固有名詞を持たぬ者たち—期待と逆の言葉をくれた人	土屋貴哉 村久保雅孝	鉛・木製パネル	2023
22	固有名詞を持たぬ者たち（仮）	土屋貴哉 村久保雅孝	ワークショップ	2023

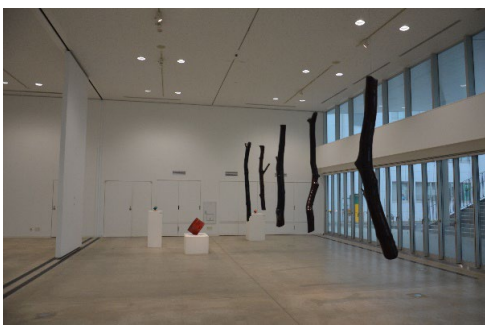
2.展示記録(共催展) 令和5年度

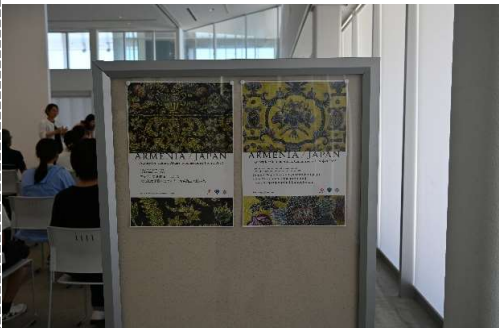
佐賀大学美術館

展覧会名	第29回重要無形文化財保持団体秀作展 日本の伝統美と技の世界		
展覧会概要	国から認定を受けた16団体と関係する24の市町村で構成された、全国重要無形文化財保持団体の成果を年に一度各地で披露する秀作展。高度な工芸技術を駆使して作られた作品が一堂に会した。会期中には本学の学生制作のドキュメンタリーの上映や、技術保存会による制作実演、特別体験コーナーや伊勢型紙しおり制作ワークショップなどが設けられた。		
会期	2023年11月9日(木)～11月26日(日)		
開館日数	16日間		
会場	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ		
主催	全国重要無形文化財保持団体協議会 全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会実行委員会		
共催	有田町・有田町教育委員会 柿右衛門製陶技術保存会・色鍋島今右衛門技術保存会 国立大学法人佐賀大学		
後援	佐賀県		
入館者数	2,166人		
展示写真			
			

3.展示記録(企画申請) 令和5年度

佐賀大学美術館

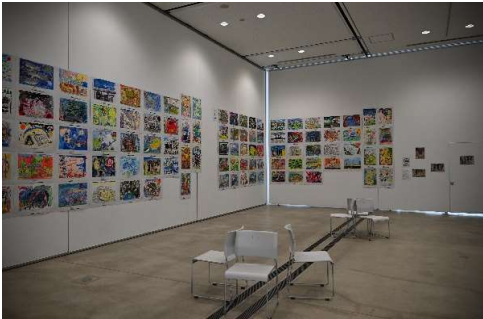
展覧会名	うるし展
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の漆・木工専攻生による成果発表ならびに、留学生の卒業制作作品の発表展が行われた。漆を巧みに用いた造形作品や工芸作品などが展示された。
《会期》	2023年7月5日（水）～7月9日（日）
《日数》	5日間
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ、中庭
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部 漆・木工専攻
展示写真	 

展覧会名	博物館学内実習 特別講義 文化庁委託事業文化遺産保護拠点交流事業：アルメニア共和国エチミアジン大聖堂付属博物館の活動と日本文化遺産保護の国際協力	
展覧会概要	アルメニア共和国エチミアジン大聖堂付属博物館の学芸員による特別講演と、学生と企画した日本とアルメニアの交流の「肖像」をテーマにした工芸・美術・写真の展示が行われた。	
《会期》	2023年7月25日（火）	
《日数》	1日	
《会場》	ギャラリー 2	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部	
展示写真		

展覧会名	令和5年度 共通基礎成果発表展
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の1年生が「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」の授業で取り組んだ作品や活動成果が展示された。
《会期》	2023年8月3日（木）～8月10日（木）
《日数》	6日間
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭、旧カフェスペース
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部
展示写真	 

展覧会名	第46回 二紀佐賀支部展
展覧会概要	毎年国立新美術館（東京都）で開催される「二紀展」の佐賀支部員による支部展が行われ、100号から200号の洋画作品と彫刻作品が展示された。会期中に佐賀支部による作品批評会が行われた。
《会期》	2023年8月23日（水）～8月27日（日）
《日数》	5日間
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ
《主催》	一般社団法人二紀会佐賀支部
展示写真	 

展覧会名	写真部 学祭写真展	
展覧会概要	佐賀大学学園祭に合わせ、佐賀大学写真部員が撮影した作品が展示された。	
《会期》	2023年10月28日（土）～10月29日（日）	
《日数》	2日間	
《会場》	小展示室、歴史展示スペース	
《主催》	佐賀大学写真部	
展示写真	 	

展覧会名	第64回 佐賀県学童美術展	
展覧会概要	佐賀県内の園児および小・中学生が授業で制作した絵画、デザイン、線描510点が展示された。小・中学生の学校、各地区、最後に本部の審査で特選を受賞した作品が並んだ。	
《会期》	2023年12月2日（土）～12月6日（水）	
《日数》	4日間	
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ	
《主催》	佐賀県造形教育研究会	
《後援》	佐賀県教育委員会	
展示写真		

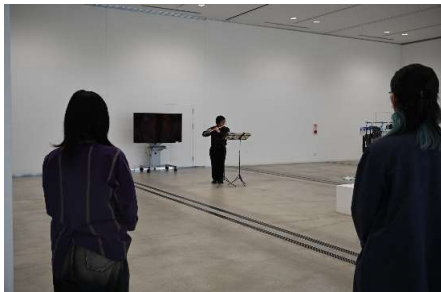
展覧会名	璞友会展	
展覧会概要	今年で14回目を迎えた「璞友会」による書道の作品展が行われ、佐賀県内で書や水墨画を学んでいる指導者と生徒による日頃の研鑽の成果が発表された。2023年度は、合計26点の作品が展示された。	
《会期》	2023年12月5日（火）～12月10日（日）	
《日数》	6日間	
《会場》	特別展示室、小展示室、歴史展示スペース	
《主催》	璞友会	
《後援》	文字文化研究会	
展示写真		

展覧会名	もくいく展
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の学部専門科目「地域創生フィールドワーク」を受講する学生14名による木育を目的とした自作木製玩具が展示された。会期中には、端材を使用した木のおもちゃ作り体験も行われた。
《会期》	2023年12月9日（土）～12月14日（木）
《日数》	5日間
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部地域創成フィールドワーク木製玩具班
《後援》	認定NPO法人とす市民活動ネットワーク
展示写真	 

展覧会名	第 8 回 児童生徒作品展	
展覧会概要	佐賀大学教育学部附属特別支援学校により、展示・鑑賞を通じて児童生徒の情操の学習に取り組むための展覧会が行われた。 特別支援学校で学ぶ児童生徒による図工・美術作品、作業製品、学習活動で制作した作品や教材が展示された。	
《会期》	2023年12月21日（木）～12月23日（土）	
《日数》	3 日間	
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2	
《主催》	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	
展示写真		

展覧会名	カルチュラルフェスティバル	
展覧会概要	佐賀大学の学生団体「グローバルサポーターズ」による学内向け国際交流イベントが開催された。日本を含む佐賀大学の学生の出身国・地域を紹介し、各国の文化を体験できるブースが出展された。また、各国の伝統舞踊や衣装などを紹介するステージパフォーマンスも行われた。	
《会期》	2024年1月12日（金）	
《日数》	1日	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、旧カフェスペース	
《主催》	国際交流推進センター	
展示写真		

実習名	展示・ライティング実習（地デザ講義）	
内容	3年次コア科目の一環で芸術地域デザイン学部石井美恵准教授の指導のもと、当館小展示室にて展覧会における照明の方法について理解を深める実習が行われた。	
《期間》	2024年1月16日(火)10:00～12:00	
《会場》	小展示室、歴史展示スペース	
《参加》	25人	
展示写真		

展覧会名	じぶんきてん	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の学生グループによる制作・キュレーションの研究成果を発表する展覧会が開催された。最終日にはアーティストによるギャラリートークや、フルートの演奏が行われた。	
《会期》	2024年1月17日（水）～1月21日（日）	
《日数》	5日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2	
《主催》	Hermits	
展示写真		

展覧会名	スタスタ、すとん
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部日本画専攻生と、その他の専攻生により日ごろの成果となる11点の絵画が展示された。開催初日には講評会が行われた。
《会期》	2024年1月24日（水）～2月2日（金）
《日数》	9日間
《会場》	小展示室、歴史展示スペース
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部 日本画専攻他有志
展示写真	

展覧会名	第48回佐賀県高等学校書道教師作品展 併設 県高校臨書展生徒優秀作品	
展覧会概要	佐賀県内の高校で書道を担当する教員が授業・研究会の他に、年に一度の書作発表の場として、教員31名による書、掛軸、篆刻などが展示された。また、高校生徒臨書展の優秀作品も合わせて展示された。	
《会期》	2024年1月24日（水）～1月28日（日）	
《日数》	5日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ	
《主催》	佐賀県高等学校教育研究会書道部会	
展示写真		

展覧会名	肖像展	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の「キュレーション応用Ⅱ」の講師や受講生による展覧会が行われた。肖像をテーマに様々なジャンルの作品、計15点が展示された。	
《会期》	2024年1月31日（水）～2月2日（金）	
《日数》	3日間	
《会場》	ギャラリー 2、スタジオ	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部キュレーション応用Ⅱ	
展示写真		

展覧会名	小さな芸術家たちのアート展	
展覧会概要	素材を通して、おへそこども園に通う子供たちの目線で制作された様々な作品が展示された。 また、会期中はワークショップが開催された。	
《会期》	2024年2月2日（金）～2月3日（土）	
《日数》	2日間	
《会場》	ギャラリー1、中庭	
《主催》	おへそこども学園	
展示写真		

展覧会名	2023年度 佐賀大学芸術地域デザイン学部卒業制作・大学院地域デザイン研究科修了制作作品展	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部、大学院地域デザイン研究科の学部生・大学院生による卒業・修了制作展が行われた。西洋画、日本画、視覚伝達デザイン、彫塑、有田セラミック、漆・木工、ミクストメディア、美術史・美術理論、地域コンテンツデザイン、フィールドデザイン、キュレーション分野を学ぶ学生たちの、学生生活の集大成となる作品が展示された。	
《会期》	2024年2月10日（土）～2月18日（日）	
《日数》	8日間	
《会場》	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭、小展示室、プロムナード、旧カフェスペース	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部、佐賀大学大学院地域デザイン研究科	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学 学生書作展	
展覧会概要	佐賀大学書道同好会による卒業書作展が行われた。佐賀県書道展、県展などに積極的に取り組んできた学生の集大成となる書作と指導教官2名の賛助作品、合わせて29点が展示された。	
《会期》	2023年2月29日（木）～3月3日（日）	
《日数》	4日間	
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2	
《主催》	佐賀大学書道同好会	
展示写真		

展覧会名	芸術地域デザイン学部 8 期生 すえひろがり	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部8期生（1年生）の有志による展示が行われた。絵画作品や立体作品が展示された。	
《会期》	2024年 3 月 5 日（火）～ 3月16日（土）	
《日数》	10日間	
《会場》	小展示室、歴史展示スペース	
《主催》	芸術地域デザイン学部8期生有志	
展示写真		

展覧会名	刺繍をほどく	
展覧会概要	佐賀大学芸術地域デザイン学部の西洋画を専攻する学生による成果展が行われた。2023年度後期のリサーチ・制作の成果となる作品38点が展示された。	
《会期》	2024年3月6日（水）～3月17日（日）	
《日数》	10日間	
《会場》	ギャラリー 1、ギャラリー 2、スタジオ	
《主催》	佐賀大学芸術地域デザイン学部西洋画専攻	
展示写真		

展覧会名	佐賀大学アカペラサークル「Score!!」によるミニライブ
展覧会概要	佐賀大学の学生音楽サークル「Score!!」計40名により、水曜日の昼休みに当館正面入口前のプロムナードでミニライブが行われた。新入生に向け複数のグループによるアカペラが披露された。
《会期》	2023年4月19日（水）、4月26日（水）
《日数》	2日間
《会場》	プロムナード
《主催》	アカペラサークルScore!!
展示写真	 

展覧会名	管弦楽団演奏（プロムナード）	
展覧会概要	佐賀大学管弦楽団2名により、当館正面入口前のプロムナードで楽器の演奏が披露された。日頃の成果の発表と新入生勧誘が行われた。	
《会期》	2023年7月14日（金）	
《日数》	1日	
《会場》	プロムナード	
《主催》	佐賀大学管弦楽団	
展示写真		
担当者		

4.職業体験

実習名	中学校職場体験学習	
内容	佐賀大学教育学部附属中学校では、学校教育の一環として職場体験学習が行われており、美術館でも2年生2名を受け入れた。受付や監視業務のほか、資料の整理・調査などの体験を行った。	
期間	2023年9月21日(木)～9月22日(金)9:00～15:30	
参加	2人	
写真		

[掲載紙・テレビ]令和5年度

展覧会名	記事名、番組名	日付・放送日	新聞社・テレビ局・ラジオ局
佐賀大学美術館開館10周年記念トークシリーズ「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」	佐賀大学美術館、開館10周年に向け講演企画 9月まで、全8回	6月15日	佐賀新聞
ミュージアムグッズ企画プロジェクト展 SUAM's Idea－日常×Museum Design-	佐賀大学美術館に「あったらいいな」 学生がグッズを創作、展示 太宰治や岡田三郎助の絵モチーフに	8月8日	佐賀新聞
佐賀大学美術館開館10周年記念展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー」	全国で唯一の国立総合大学にある美術館…「芸術が普通に身の回りにあるものに」	9月4日	読売新聞
常設展2期	太宰治が描いた油彩画「久富君像」に文学愛好家も注目…佐賀大美術館で展示	9月7日	読売新聞
常設展第2期、佐賀大学美術館開館10周年記念展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー」	さが博物館めぐり 開館10年、地域文化交流後押し	9月12日	佐賀新聞
佐賀大学美術館開館10周年記念展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー」	佐賀大学美術館 開館10周年展 学部横断 教員ペアで制作	9月14日	読売新聞
佐賀大学美術館開館10周年記念展「響きあうアートー美の拡がり、美術の拡がりー」	佐賀大学美術館10周年記念展	9月19日	佐賀新聞
全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会	佐賀大で「伝統美と技の世界」展	11月10日	佐賀新聞
来館者30万人セレモニー	佐賀大美術館来館者が30万人突破	12月8日	文教速報
常設展第3期、2023年度佐賀大学芸術地域デザイン学部卒業制作・大学院地域デザイン研究科修了制作作品展	さが博物館めぐり 2023年度佐賀大学卒業・修了作品展	1月30日	佐賀新聞

[見学団体一覧]令和5年度

社：社会人 シ：シニア 学：大学・短大・専門学校生 高：高校生 中：中学生 小：小学生 未：未就学児

団体名	日付	時間	人数	引率	合計	同日合計	備考 ※視察の場合は「視察」と入
令和5年度佐賀大学新採用職員研修	4月19日	10:20	社 0	0	0		視察
佐賀大学農学部同窓会OB	5月13日	12:30	社 16	0	16		
日本学術振興会	6月15日		社 4		4		視察
福岡県立糸島高等学校	6月21日	11:20	高 35	2	37	77	
福岡県立糸島高等学校	6月21日	11:40	高 38	2	40		
佐賀県立唐津西高等学校 PTA	7月11日	11:30	社 19	3	22		
私立筑紫女学園高等学校	7月12日	15:27	高 48	3	51		
学校法人 佐賀龍谷学園 龍谷高等学校	7月26日	11:30	高 20	2	22		
佐賀市立城東中学校 夢の種まき(YUMETANE)プロジェクト	8月24日	11:15	中 13	1	14	35	
佐賀市立城東中学校 夢の種まき(YUMETANE)プロジェクト	8月24日	11:25	中 20	1	21		
長崎県立大村高等学校 PTA	9月1日	14:10	社 18	2	20		
私立飯塚高等学校	9月15日	11:26	高 9	3	12		
福岡県立大川樟風高等学校 PTA	10月11日	11:20	社 10	3	13		
福岡県立筑前高等学校 PTA	10月12日	14:30	社 31	2	33		
九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議	10月13日	16:20	社 13	0	13		
公益社団法人経済同友会	10月21日	15:50	社 20	0	20		
清風大学16期生	10月31日	9:40	社 10		10		
100才会(有田町)	11月14日	13:10	シ 16	0	16		
有田町生涯学習課	11月17日		シ 20	3	23		
有田いずみ山いきいき体操クラブ	11月17日		シ 20	1	21		
佐賀県立唐津東中学校	11月22日	15:00	中 80	3	83		
佐賀大学教育学部附属小学校1年生	12月5日	11:15	小 103	4	107		
佐賀大学教育学部附属小学校3年生	12月6日	10:05	小 34	8	42		
放課後等デイサービスしーど	12月9日	11:06	小 10	5	15		
佐賀市立本庄幼稚園(年長・年中)	12月12日	10:03	未 15	4	19		
佐賀市立本庄幼稚園(年少)	12月13日	10:04	未 20	4	24		
三潆校区まちづくり振興会(久留米市)	12月21日		社 20		20		
指定障害者支援施設めぐみ園	12月23日	10:40	社 11	3	14		
佐賀県フィルムコミッション	1月5日	16:10	社 5	2	7		視察
佐賀大学教育学部附属特別支援学校	1月16日	14:12	中 4	2	6		
佐賀ランゲージセンター	1月17日	15:30	学 20	2	22		
佐賀県立佐賀北高等学校書道部1年生	1月24日	16:50	高 6	1	7		
私立佐賀清和高等学校	1月25日	10:23	高 8	1	9	31	
私立佐賀清和高等学校	1月25日	13:50	高 21	1	22		
佐賀県立佐賀西高等学校2年生	1月26日	10:10	高 13	1	14		
私立佐賀清和高等学校	1月26日	10:20	高 17	1	18		
佐賀県立佐賀西高等学校2年生	1月26日	13:35	高 22	1	23	37	
佐賀県立佐賀東高等学校	1月26日	16:05	高 8	1	9		
幼児連携型認定こども園おへそこども園	2月2日	13:33	未 28	2	30	72	
幼児連携型認定こども園おへそこども園	2月2日	13:52	未 27	2	29		
幼児連携型認定こども園おへそこども園	2月2日	14:14	未 7	6	13		
企業主導型保育園おへそつながり	2月2日	14:25	未 19	2	21		
佐賀市立城東中学校	2月17日	10:00	中 11	1	12		
佐賀県白石町立六角小学校6年1組	2月28日	13:03	小 17	1	18		
佐賀県立佐賀西高等学校1年生	3月13日	10:00	高 31	1	32	67	
佐賀県立佐賀西高等学校1年生	3月13日	13:00	高 34	1	35		
佐賀県立佐賀西高等学校2年生	3月15日	10:05	高 16	1	17		
社会人			177	15			192
シ			56	4			60
学生			20	2			22
高校			326	22			348
中学			128	15			143
小学			164	18			182
未就学			116	20			136
総合計			987	96			1083

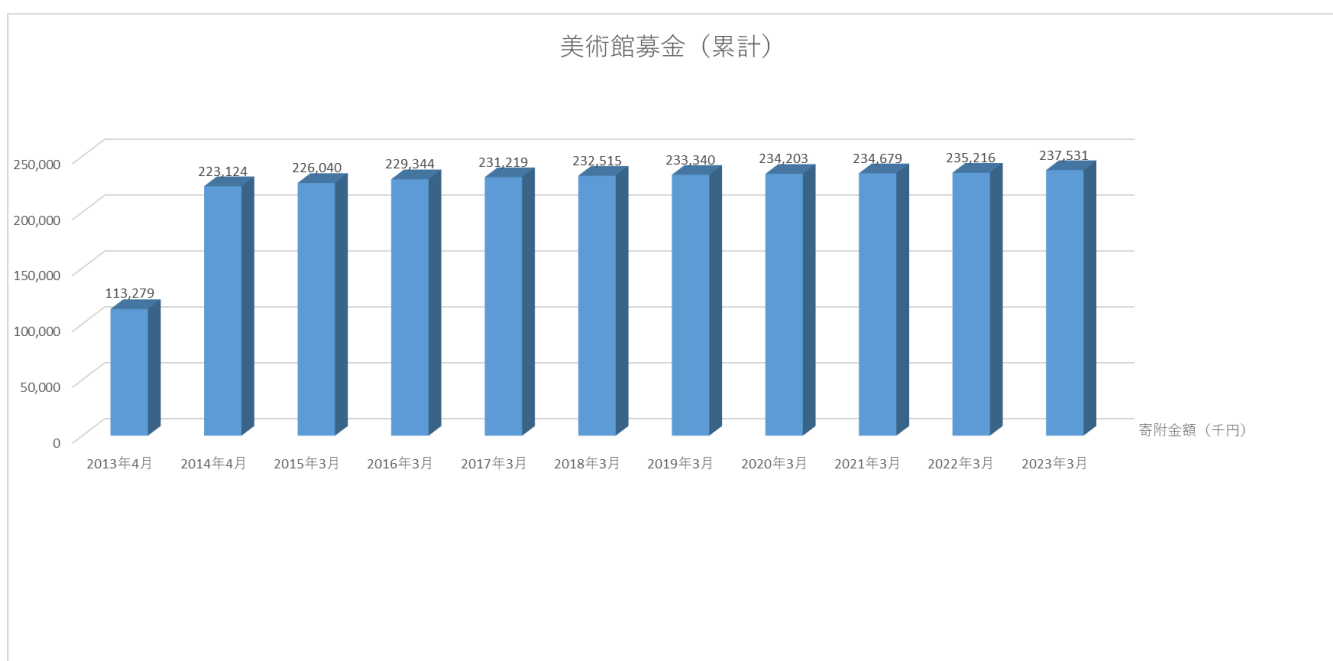
7 職員研修

名称	日時	会場	主催	出席
令和5年度独立行政法人国立美術館キュレーター研修	令和5年6月26日（月）～6月30日（日）	国立西洋美術館	独立行政法人国立美術館	見藤 素子
令和5年度全国博物館長会議（第30回）	令和5年7月5日（水）	文部科学省東館3階講堂	文化庁、公益財団法人日本博物館協会	芸術地域デザイン学部准教授 藤井 康隆

6 寄附

[美術館設置募金の経緯]

2011 年 6 月	美術館設置募金WG設置
2012 年 4 月	美術館設置事業募金開始
2013 年 6 月	寄附者芳名帳を公開
	美術館規則の制定に伴い、美術館設置募金WGを解散
9 月	美術館に高額寄附者銘板を設置
10 月	美術館開館後も美術館設置事業募金を継続
2024 年 3 月	募金総額 237, 581, 380 円 (2024 年 3 月 31 日現在)



8. 新収蔵作品

令和5年度に佐賀大学の所蔵となった物品の内、佐賀大学美術館が保管もしくは管理する作品。

収蔵年	作家名	作家名 E	作品名	作品名 E	分類	制作年	寸法 mm	素材	寄贈者
2023	山本 民二	YAMAMOTO, Tam iji	無題(田中幹太郎 像)	Untitled (Statue of Sotaro Tanaka)	彫刻	不明	H508mm, W240mm, D235mm	ブロンズ、(台座 御影石)	田中 陽一



山本 民二 《無題(田中幹太郎

9. 令和5年度展覧会 入館者一覧

※数値に重複あり

	展覧会	入場者数	会期	日数	主催	展示会場
1	常設展第1期	4,469	4/4 ～ 7/23	96	佐賀大学美術館	特別展示室
2	チラシ・ポスターで紐解く佐賀大学美術館10年史	3,186	4/11 ～ 6/25	66	佐賀大学美術館	ギャラリー1
3	写真で見る佐賀大学	3,186	4/11 ～ 6/25	66	佐賀大学美術館	歴史展示スペース
4	展示ができるまでVol.2	3,186	4/11 ～ 6/25	66	佐賀大学美術館	ギャラリー2
5	うるし展	488	7/5 ～ 7/9	5	佐賀大学 芸術地域デザイン学部 漆・木工専攻	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭
6	ミュージアムグッズ企画プロジェクト展 SUAM's Idea-	3,024	7/25 ～ 8/27	24	佐賀大学美術館	小展示室
7	博物館学内実習 特別講義 文化庁委託事業文化遺産保護拠点交流事業：アルメニア共和国エチミアジン大聖堂付属博物館の活動と日本の文化遺産保護の国際協力	161	2023/7/25	1	芸術地域デザイン学部（石井美恵准教授）	ギャラリー2
8	常設展第2期	8,396	8/3 ～ 10/31 11/9 ～ 11/26	89	佐賀大学美術館	特別展示室
9	令和5年度 芸術地域デザイン学部 共通基礎成果発表展	1,756	8/3 ～ 8/10	6	芸術地域デザイン学部	ギャラリー1・ギャラリー2、スタジオ、中庭、旧カフェスペース
10	第46回 二紀佐賀支部展	798	8/23 ～ 8/27	5	二紀佐賀支部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
11	佐賀大学美術館10周年記念展一響きあうアートー	2,513	9/9 ～ 10/22	38	佐賀大学美術館	ギャラリー1・ギャラリー2、スタジオ、旧カフェスペース、中庭
12	写真部 学祭 写真展	179	10/28 ～ 10/29	2	佐賀大学写真部	小展示室、歴史展示スペース
13	第29回重要無形文化財保持団体秀作展 日本の伝統美と技の世界	2,166	11/9 ～ 11/26	16	全国重要無形文化財保持団体協議会実行委員会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
14	第64回 佐賀県学童美術展	1,595	12/2 ～ 12/6	4	佐賀県造形教育研究会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
15	もくいく展	814	12/9 ～ 12/14	5	佐賀大学芸術地域デザイン学部地域創成フィールドワーク木製玩具班	ギャラリー1・ギャラリー2
16	環友会展	438	12/5 ～ 12/10	6	環友会	特別展示室、小展示室、歴史展示スペース
17	第8回 児童生徒作品展	27	12/21 ～ 12/23	3	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	ギャラリー1、ギャラリー2
18	常設展示 第3期	6,379	12/22 ～ 3/24	69	佐賀大学美術館	特別展示室
19	カルチュラルフェスティバル	67	1月12日	1	国際交流推進センター	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、旧カフェスペース
20	じぶんきてん	648	1/17 ～ 1/21	5	Hermits	ギャラリー1、ギャラリー2
21	第48回佐賀県高等学校書道教師作品展 併設 県高校臨書展生徒優秀作品	1,008	1/24 ～ 1/28	5	佐賀県高等学校教育研究会書道部会	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
22	スタスタ、すとな	233	1/24 ～ 2/2	9	芸術地域デザイン学部 日本画専攻他有志	小展示室、歴史展示スペース
23	肖像展	328	1/31 ～ 2/2	3	キュレーション応用Ⅱ	ギャラリー2、スタジオ
24	小さな芸術家たちのアート展	354	2/2 ～ 2/3	2	おへそこども学園	ギャラリー1、中庭
25	2023年度 佐賀大学芸術地域デザイン学部卒業制作・終了制作作品展	1,969	2/10 ～ 2/18	8	佐賀大学 芸術地域デザイン学部	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ、中庭、小展示室、プロムナード、旧カフェスペース
26	佐賀大学 学生書作展	450	2/29 ～ 3/3	4	佐賀大学書道同好会	ギャラリー1、ギャラリー2
27	刺繍をほどく	996	3/6 ～ 3/17	10	芸術地域デザイン学部 西洋画専攻	ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ
28	芸術地域デザイン学部8期生 すえひろがり	214	3/5 ～ 3/16	10	芸術地域デザイン学部 8期生有志	小展示室、歴史展示スペース

令和5年4月1日～令和5年3月31日

年度別入場者実績

※数値に重複なし

	総入館者数	うち有料入館者数	開館日数
平成25年度	27,167	0	125
平成26年度	40,780	2,652	254
平成27年度	37,965	0	281
平成28年度	38,474	0	291
平成29年度	34,718	0	285
平成30年度	31,883	0	273
平成31年度	30,698	0	280
令和2年度	13,929	0	140
令和3年度	17,459	0	271
令和4年度	15,295	0	234
令和5年度	22,220	0	272

Ⅱ 自己点検・評価

令和5年度までの美術館運営の特徴について

当美術館は平成25年度10月に新制佐賀大学(旧佐賀大学と佐賀医科大学統合による)10周年を記念して開館した。国内で初の国立総合大学に附属する美術館であり、様々な展示事業を通じて大学の情報や教育・研究の成果を発信するとともに、地域のコミュニティセンターとして市民の方からも気軽に大学に足を運んでもらうきっかけとなることを目指している。

この目的のために大学内の施設ながら常時一般公開し、また、市民団体にも活動の場を提供しながら年間を通して開館している。オープンから令和5年度末までの10年半に約31万人を超える入館者があった。来館者の層は学生や教職員など大学関係者にとどまらず、市民の一般観覧、近隣小中高校からの団体見学など幅広い。本館は「開かれた大学」を象徴する施設としての存在意義を示すと同時に、芸術活動が日常にとけ込んでいる佐賀の文化風土に由来する当館の大きな特長である。

このような市民を含めた利用や、「特美」に由来する美術・工芸教育の伝統と質、芸術と他領域を結びつける総合大学ならではの学際的な試み、佐賀の文化・芸術の紹介等を、卒業生を含む周囲の関係者との緊密な協力関係のもとに実施できることは当館の強みとなっている。

なお、令和5年度は新型コロナウイルスによる影響も少なくなり、来館者数が2.2万人を超えた。また、開館10年目となり、2月には新しい学芸員を迎え、運営上の問題も少しずつ解決に向かっている。

1. 令和5年度の活動の概略

令和5年度に佐賀大学美術館は開館10周年を迎え、来館者数が30万人に達した。その記念事業として“美術館の今後を考える10周年記念特別展”を企画し、約半年にわたって大きく分けて2つの事業を実施した。

一つ目は理論編として、「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」のテーマのもと、美術はもちろん、歴史・民俗・生物・環境・保存修復・教育普及など、隣接関連分野における近年の動向も参照しながらのトークシリーズを開催し、美術館・博物館関連の種々の専門家計10名を招いた。二つ目は実践編として、本学が総合大学であることから、美術の専門家と他分野の専門家とで4組のペアを作り「響きあうアート ―美の拡がり、美術の拡がり―」のテーマのもと、それぞれ「美術×物理学」、「美術×心理学」、「美術×哲学」、「美術×民俗学」を掛け合わせたグループ展を開催した。

また、共催展として令和5年11月、本学美術館において第28回重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」（主催：全国重要無形文化財保持団体協議会、全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会実行委員会）を開催した。陶芸・染織・漆芸・和紙等、それぞれの分野に伝わる高度な工芸技術を駆使して作られた作品が一堂に介し、会期中（16日間）に2,000人を超える来場者があった。

令和5年度の入館者数は、22,220人(令和6年3月末時点)となり、新型コロナウイルスによる影響からも少しずつ回復に向かっている。

企画申請事業を主催する学内外の団体に対しての使用料は、令和5年度は3件、224千

円となった。昨年度と比して収入額は184千円の減少、光熱水料相当額の振替額は61千円であった。その結果、収入総額は285千円となり前年度の473千円から187千円の減少となっており、企画申請事業に伴う収入面では新型コロナウイルスの影響が依然小さくないことが伺える。

(1) 美術館主催事業

令和5年度は、開館10周年を迎え、記念事業として“美術館の今後を考える10周年記念特別展”を企画し、約半年にわたってトークシリーズとグループ展の2つの事業を実施した。

また、大学の所蔵品を広く一般の方へ公開するため、前年度の収蔵品を軸とした常設展を開催した。

- ① 「常設展 第1期」では、「佐賀大学美術館の風景画～佐賀を探そう～」と題し佐賀大学美術館の所蔵する風景画を展示した。
- ② 「常設展 第2期」では、「佐賀大学美術館のコレクション大集合」と題し、10周年記念展に際して、佐賀県や佐賀大学の教育史の歩みを振り返る展示を行い、久富邦夫や瀧一夫らの作品を公開した。
- ③ 「常設展第3期」では「佐賀大学美術館の資料・アーカイヴ」と題し、2015年ごろまでに本館に収蔵した作品を中心に紹介し、本学にゆかりのある作家の作品を展示した。
- ④ 「チラシ・ポスターで紐解く佐賀大学美術館10年史」では、佐賀大学美術館で開催された主催展のチラシ・ポスター等の資料をとおして美術館の10年史を紐解いていった。
- ⑤ 「写真で見る佐賀大学」では、佐賀大学地域学歴史文化研究センター所蔵の絵画や写真パネル、佐賀大学同窓会所蔵の写真資料を紹介した。
- ⑥ 「展示ができるまで Vol.2」では、前回の同名展覧会に新たな展示資料を追加した拡大版として実施した。
- ⑦ 「ミュージアムグッズ企画プロジェクト展 SUAM's Idea-日常×Museum Design」では芸術地域デザイン学部藤井康隆准教授のゼミの協力のもと、地域ブランディングに貢献することをテーマとし、学生考案のミュージアムグッズの試作品や企画案が展示された。
- ⑧ 10周年記念事業として、大きく分けて2つの事業を実施した。一つ目に「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」のテーマのもと、全8回10名の講師によるトークシリーズを開催した。二つ目に「響きあうアート 一美の拡がり、美術の拡がり」のテーマのもと、学内の美術の専門家と他分野の専門家4組のペアによるグループ展を開催した。

(2) 共催事業

本学美術館において第28回重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」(主催：全国重要無形文化財保持団体協議会、全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会実行委員会)を開催した。

企画申請事業

- ① 令和5年度における学部・学生による作品の展示としては、芸術地域デザイン学部主催による「芸術地域デザイン学部共通基礎成果発表展」、同学部西洋画専攻による「刺繍をほどく展」、同学部漆・木工専攻による「うるし展」、同学部日本画専攻による「すえひろがり展」、その他、同学部及び地域デザイン研究科に

よる「佐賀大学芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科デザインコース 卒業・修了制作展」や同学部の地域創生フィールドワーク木製玩具班による「もくいく展」などが開催された。

- ② 主な学外者の事業としては、二紀佐賀支部による「第46回 二紀佐賀支部展」、佐賀県造形教育研究会による「第64回佐賀県学童美術展」、璞友会による「璞友会作品展」、佐賀県高等学校教育研究会書道部門による「佐賀県高校書道教師作品展」などの他、おへそ子ども学園による「小さな芸術家たちのアート展」など地域の文化活動の発表の場所としての役割を担うことができた。

(3) 刊行物の発行

令和5年度刊行物はなかった。

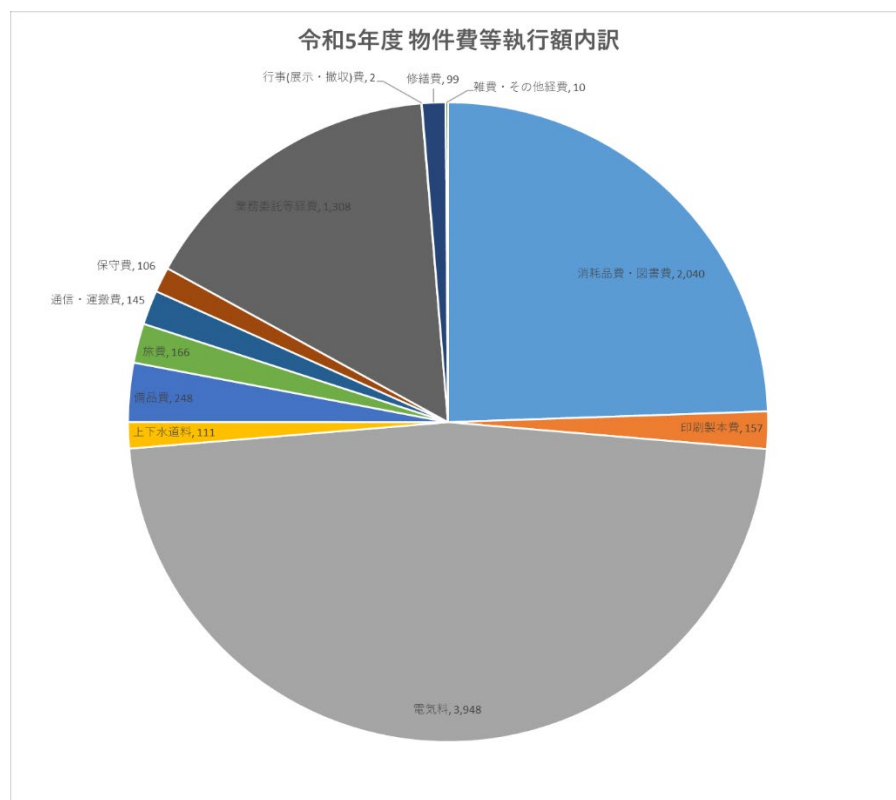
(4) 掲載紙・テレビ取材等

当館で開催される事業の広報については、当館ホームページだけでなく、10周年を機に、Facebook（新）、Instagram、Xを開始し、SNSを利用した広報活動を広げた。令和5年度にメディアでの掲載・放映は、新聞等10件が取り上げられた。

また見学団体・視察等は、県内高等学校を中心にのべ40団体、1,083人の来館者を迎えた。

(6) 運営費の執行状況 [データ:令和6年3月31日現在]

令和5年度に美術館運営のために執行した経費の額は、非常勤職員（学生等アルバイト等を含む。）人件費等8,834千円、物件費等8,340千円（内訳は以下のとおり）、計17,174千円であった。



2. 今後の課題等

大学美術館としての理念に基づく展示企画、作品収集・保存の状況、館運営などのバランスの中で年間スケジュールを構成してきた。開館から10年が過ぎ、大学及び学生、そして地域社会に資するような活動についても実績を積んできた。一方で、今後も継続的に美術館を運営するためには、常に課題の所在を念頭に置きつつ多方面と問題を共有し、助言・協力を仰ぎつつ、実現できるところから順次取り組みを進めていく必要がある。

(1) 美術館の運営費等

開館以来、美術館の運営費の継続的な確保は最大の課題となっている。令和5年度は10周年企画の案内に合わせ寄附募集を行ったこともあり、ここ数年は50万円程の寄附であったが、180万円を超える寄附があった。今後も寄附増加に向けて、活動を行っていくが大幅な改善は見込めず、法人からの予算措置により運営している。

このような状況の下、安定した運営費の確保に資するため、平成26年度以降、施設使用者に対して光熱水費の実費を、さらに平成27年度からは学外者については展示室使用料を徴収している。令和5年度におけるこれらの収入は224千円であるが、前年度(408千円)と比して減少となり、未だ新型コロナウイルス感染が及ぼした社会的、経済的なマイナスの要因は以前残っているものの、今後の緩和に向けて、増収も見込まれる。(表1)

また、平成28年度以降主催展事業費確保のため、独立行政法人日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金助成金の地域文化施設公演・展示活動(美術館等展示)に要望書を提出し助成金を獲得するよう努めている。(表2)

なお、令和2年度、3年度は学芸員不在の状況により規模の大きい主催展を開催することが困難であったため、当該年度の助成金申請は見送っている。令和5年度の開館10周年に合わせて申請を行ったが、採択されなかった。

(表1) 美術館貸付料収入等の推移(平成26年度～令和5年度)

単位: 円

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
現金等収入			13	349,252	10	401,800	9	564,000	12	634,000	7	799,000	3	357,000	6	462,500	7	408,000	3	224,000
学内予算振替	8	515,601	8	137,385	10	256,999	10	172,119	13	206,171	8	137,963	7	85,312	8	136,737	5	64,892	5	61,016
計	8	515,601	21	486,637	20	658,799	19	736,119	25	840,171	15	936,963	10	442,312	14	599,237	12	472,892	8	285,016
前年度差引増減(△)額		-		△28,964		172,162		77,320		104,052		96,792		△494,651		156,925		△122,345		△187,876

(表2) 助成金収入等の推移(平成28年度～令和5年度)

単位: 円

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31・令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
芸術文化振興基金助成金	1	1,353,000	1	1,130,000	1	858,000	1	720,000	1	1,014,000	-	-	-	-	-	-
鍋島報効会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	134,600

(2) 学芸員の処遇改善と安定的確保

令和3年度中はほぼ不在であった学芸員であったが、令和4年度は2名(うちフルタイム非常勤1名、パートタイム非常勤1名)を採用していたが、令和5年度(2月から)には常勤1名(契約コーディネーター・学芸員)を採用し、フルタイム非常勤1名と2名体制となり、事務職員2名(常勤職員1名と非常勤事務職員1名)合わせて4人体制となった。

(3) 10周年記念事業の開催

令和5年度に佐賀大学美術館は開館10周年を迎えた。その記念事業として“美術館の今後を考える10周年記念特別展”を企画し、約半年にわたって大きく分けて2つの事業を実施した。

一つ目は理論編として、「地域・歴史・芸術 私たちは何をどう保存するのか？」のテーマのもと、美術はもちろん、歴史・民俗・生物・環境・保存修復・教育普及など、隣接関連分野における近年の動向も参照しながらのトークシリーズを開催し、美術館・博物館関連の種々の専門家計10名を招いた。二つ目は実践編として、本学が総合大学であることから、美術の専門家と他分野の専門家とで4組のペアを作り「響きあうアート ―美の拡がり、美術の拡がり―」のテーマのもと、それぞれ「美術×物理学」、「美術×心理学」、「美術×哲学」、「美術×民俗学」を掛け合わせたグループ展を開催した。

(4) 老朽化に伴う施設管理

令和5年10月をもって10周年を迎えた佐賀大学美術館ではすでに老朽化に伴う施設の管理上の問題も顕在化しつつある。1階の床面の亀裂、移動壁、空調機の不具合など経年劣化に伴うメンテナンスや修理が必要となっている。

今後、事件、事故の防止、発生後の対応や予算措置等、施設課などの担当部署とも十分な検討をしていく必要がある。

令和 6 年度第 1 回 佐賀大学美術館事業評価委員会議事要旨

日 時：令和 7 年 3 月 28 日（金）10:30～11:30

場 所：佐賀大学産学連携プラザ 3 階会議室 1

出席者：渡館長（委員長）、徳安副館長（副委員長）、山下委員、青木委員、
服部委員、野中委員

欠席者：柳委員

陪 席：黒木係長、五十嵐学芸員、吉丸事務補佐員

議 題：

【審議事項】

（１）令和 5 年度佐賀大学美術館事業報告及び自己点検・評価について

「令和 5 年度佐賀大学美術館事業報告及び自己点検・評価」（資料 1）に基づき黒木係長から概要の説明があった。

外部評価委員から次のような意見があった。

青木委員

- ・コロナ後の新しい方向性が見え始めており、積極的に新しい試みが行われている印象を受けた。

服部委員

- ・学生作品展などおもしろかった。今後に興味を持っている。

野中委員

- ・多彩な展覧会やイベントを積極的に開催し、様々な可能性を探っている姿勢がよかった。
- ・大学美術館として、どのような人材を育成しようとしているのか、その方向性を意識した運営が重要である。

（２）その他

特になし

【報告事項】

（１）令和 6 年度主催事業及び申請企画について

- ・黒木係長から、資料 2 に基づき令和 6 年度は主催展、共催展、申請企画として 27 件の企画展を開催したとの報告があった。続けて、五十嵐学芸員から令和 6 年度の主催展について説明があった。

- ・「SUMA/ROOT」シリーズとして、佐賀県や九州にゆかりのある若手・中堅作家の個展を開催した。

ジェンダーバランスを考慮し、女性作家の個展を開催。佐賀大学卒業生の瀬

戸口朗子氏の個展を開催した。11 月からは佐賀大学卒業生で有田キャンパスで学んだ作家「黒木由美展」を紹介し、高評価を得た。

- ・「黒木由美展」については、金子財団から助成金を獲得。美術館の地域貢献が評価された。
- ・「あらわすいとなみ」シリーズ：地域のアート活動を紹介。大阪西成区のファッションブランドを紹介。
- ・SUAMScreening+：萩原留美子氏の映像作品展。地域性にとらわれない企画。
- ・ワークショップの開催

夏休みに風鈴に絵をつける子供向けイベントを開催。地域の方々、特に子供たちの需要が高いことが判明。今後もワークショップなどを増やし、佐賀大学の認知度向上につなげたい。

(2) 令和 7 年度主催事業及び申請企画について

黒木係長から、資料 3 に基づき令和 7 年度開催予定の主催展 6 件、申請企画展 12 件が現在承認され開催予定であることが報告された。

続いて五十嵐学芸員から令和 7 年度に実施予定である主催展について説明があった。来年度は 1 階ギャラリーでも主催展を行う予定であり、申請企画は昨年より減少の見込みであるとの報告があった。

青木委員から、広報活動についての質問があり、黒木係長から、SNS は 10 周年を機に X、Instagram の利用を開始、Facebook を追加更新したこと、ホームページを 3 月 28 日からリニューアルし、カレンダー表示機能や「SUAM なび」の機能を追加したこと、各種書類や広報資料のダウンロード機能を追加し、業務効率化を図る等の説明があった。

(3) その他

- ・美術館の運営と今後の展開について

渡委員長から、企業サポートによる資金調達を検討しているとの発言があった。

野中委員から助成金の活用の可能性について意見が出された。また、県立美術館との協力関係の必要性についても発言があった。

- ・服部委員から現在の看板は見えにくいので、改善が必要ではないかとの意見が出された。

五十嵐学芸員より、現在、看板の見直しについて検討を始めている。データ入れ替えが容易であること、起業協賛にも利用可能なことから、LED サイネージの導入も視野に入れて検討している。

令和５年度外部評価及びコメント

	企画名	評価項目				コメント（◆外部委員、○内部委員）	評価項目				コメント（◆外部委員、○内部委員）
		意義	水準	明快	反響		教育研究	地域貢献	芸術振興	大学運営	
1	常設展第１期	4.0	3.5	3.5	3.5	◆展示に工夫があった。戦後の佐賀の風景。もうこの景色の場所とかがわかる人も少なからう。しかし、絵にはその時代、時間が閉じ込められており、後々見ても時代をイメージすることは可能である。今は気づかない若い人々もいつか。新鮮に作品して見ることであろう。	3.5	3.5	3.5	3.5	◆写真展としては、昔の佐賀はよく見るが油彩で描く佐賀の風景、そして今という関係は、西洋の表現道見、考えを取り入れた画家たちが、わくわくした気持ちで、対象となる佐賀の風景を選んでいる。今では何れも絵がかないものに目が映っている。そのちがいが、ずれが見える、そこを考えるとという教育があつていい。
2	チラシ・ポスターで紐解く佐賀大学美術館１０年史	3.5	3.5	3.0	3.5	◆１０年間のチラシ、ポスターが並べてあるだけに終わっている。見てほしいという欲求がなさすぎる。 ◆作品や作家の存在とともに、こうした周辺資料もふくめて検討、紹介していくことで、より深く地域の美術文化を知ることができよう。周辺資料の価値付けを行った（資料の「資産化」）という点で、きわめて意義深い内容であったと思う。	3.5	3.0	3.5	3.5	コメントなし
3	写真で見る佐賀大学	3.5	3.5	3.0	1.5	◆バンカラな時代である。皆が学ランに下駄。この時代に生きた人たちは見に来たのだろうか。しかし、ほとんどが亡くなられたであろう。写真以外にもスケッチ画などはなかったのだろうか？ ◆作品や作家の存在とともに、こうした周辺資料もふくめて検討、紹介していくことで、より深く地域の美術文化を知ることができよう。周辺資料の価値付けを行った（資料の「資産化」）という点で、きわめて意義深い内容であったと思う。	3.5	3.0	3.5	3.5	◆なつかしい、も悪くはない。後世につないでいくとなればなんらか、学術的なとらえ方でふくらまし保存していくという方法など。
4	展示ができるまでVol.2	4.0	4.0	4.0	3.5	◆裏方の仕事、工夫を見るのは興味あることです。限られた予算、スペースでよりよく作品を人々に伝え見てもらおうとする、設計図のようなものです。それぞれの場所で作り出された作品が一堂に集まり新たに美しさ、つらさ等、その時代を構成しようとする美術展。 目に見え寧部分で現実には見えているという。	4.0	3.5	3.5	3.5	◆プロデュース。縁の下の力持ちというところか。
5	うるし展	4.0	3.7	3.7	3.3	◆ありふれた色んな素材をうるし化している。興味ある展覧会である。自然の植物の表皮をうるし化するなど井川先生の見方考えが生徒さんたちに反映し、現代の作品にまで登りつめており、将来が楽しみなのだが？ ◆漆・木工専攻の学生らの作品展であった。独自の感性と個性を生かした作品があった。ただ伝統的な輪島塗や木曾漆器の特徴や違いなどに挑戦した作品などもあるとより興味が持てたように感じた。	4.0	3.3	3.7	4.0	◆毎年のうるし展、楽しみです。 ◆学生らの成果展でありレベルは水準をこえているように思った。佐賀大に漆・木工専攻があることは知る人は知っているだろうが、あまり広く知られていないように思う。地域社会への貢献のしかたなども含めて、工夫が必要かと感じた。頑張ってください。
6	ミュージアムグッズ企画プロジェクト展 SUAM's Idea-日常× Museame Design-	4.5	4.0	4.0	4.0	◆今日の美術館は展示作品なりのコレクションのグッズ等を用意している。見る側からしても記念品として買い求める。その関係を生徒さんたちは作品によりそう形でグッズ化して面白かった。 ◆魅力的なグッズは、思いのほか誘客のツールとして有効であり、積極的な開発姿勢は意義があることと思う。ぜひ実現可能なアイデアと実現を期待したい。	4.0	4.0	4.0	4.5	◆岡田作品、太宰治の久富邦夫像からその色彩をとらえ、Ｔシャツやグッズを作り出している。実際にここまでやる美術館はまだない。
7	令和5年度 芸術地域デザイン学部 共通基礎成果発表展					コメントなし					コメントなし
8	第４６回 二紀佐賀支部展	3.0	3.0	3.0		◆例年通りのレベルと内容に大した変化なし。	3.0	3.0	3.0	3.0	◆型にはまらない方向性を目指したいと思うのだが、団体展という社会のしがらみか。
9	常設展 第２期	4.0	5.0	4.0	4.0	◆佐大美術館のコレクション大集合をみた。岡田三郎助の「若き娘の顔」辻永の「須磨初秋」などのほか、歴代美術教師の作品などが展示されていた。やはり、美術館ができることで、作品も収集できる。開催意義はあり、水準も高い。	4.0	4.0	4.0	4.0	◆教育研究に資する事業であった。もっと地域の小中高にもアピールしてほしかった。歴代の佐大特美出身者の作品をあつめて展示すれば地域社会にさらにアピールするのではないか。OBとの連携をどうすすめていくかも課題と思う。
10	佐賀大学美術館１０周年記念展－響きあうアト－	3.5	3.5	2.5	2.5	◆美術学部と他学部の先生とのコラボ。ビジュアル的には普通の現代美術。ただ古い。かつての方法を踏襲しているにすぎん。新しさはない。物理、心理学、農業（山）、哲学等の先生とのコラボというのだが、どこがコラボか？何もない。互いに話し合った言葉を表現しようとしたのだろうが、何もない。観念、概念的というでもない。新たな想像力が希薄であり、互いに響きあうなどほど遠いのではないか。 本来、現代美術においてはすでに農業、物理、環境、哲学などと融合反復を繰り返している。自然にやればいいはずなのに？ ◆美術館と各学部教員とのコラボによる記念特別展であった。各学部との連携による大学美術館事業という面で開催意義があった。水準は高いが美術とのコラボについてはまだまだ未成熟な作品を感じた。美術と哲学のシンポでは、５０名程の観客がおり熱心な聴衆だったのでアピールがあった。	3.5	3.5	3.5	3.5	◆私の美術関係の友人も厳しい評価であった。 ◆芸術地域デザイン学部の学生にとっては、刺激のある企画展ではなかったかと感じた。地域社会への貢献というのはこの企画展ではあまり感じられなかった。新視点の提供という点で芸術振興に貢献した。こうした試みにより、各学部との関係が強められ、理解が深まり学内での協力者が増えて、佐大美術館としての特長が伸びていけばよいと思う。
11	写真部 学祭 写真展					コメントなし					コメントなし
12	全国重要無形文化財保持団体協議会 佐賀・有田大会	4.3	4.3	4.3	4.3	◆本事業は佐賀大と有田町、全国重要無形文化財保持団体などとの連携で開催されたもので、大学美術館ならではの開催だった。出品された作品はどれも重要文化財級の秀作できわめて高い水準であった。１８日の伊勢型紙の体験に参加したが、体験をとりいれることで観覧者もその高度な技術を実感できた。やはり全国から秀作ぞろいで観覧者は見入っている人が多かった。より多くの人に見てもらいたい。	4.7	4.3	4.3	4.3	◆佐賀大学生による映像も、学生のスキルをみがぐとともに地域の工芸への関心を高めるものとなっている有田町や柿右衛門製陶技術保存会などとの共催はよかった。このような共催方式をさらに模索すべきだろう。重要文化財（工芸）団体の秀作を一同に観覧できる機会はめったにない。最高級の作品にふれることで芸術はより高まる。芸術における地域貢献の一つの姿を示したことで、大学運営にも大きく貢献した。
13	常設展示 第3期	2.5	2.5	2.5	2.5	◆なつかしい新たな人たちの作品が多く、うれしく見られた。その時代を必死で生きた作家たちの作品。派手さはなからうが、健実かつ真摯な取組みは佐賀の作家の良さである。	2.5	2.5	2.5	2.0	コメントなし
14	カルチュラルフェスティバル	3.0	3.0	3.0	3.0	コメントなし	3.0	3.0	3.0	3.0	コメントなし
15	第64回 佐賀県学童美術展	3.3	3.0	3.5	3.5	◆子供たちの勢いが爆発したような展開であり、毎年、面白さのしさにあふれている。小学校の先生たち大変だろうが、子供たちに寄りそいながらの指導が感じられて大変イイと思う。	3.5	3.5	2.5	4.0	コメントなし

16	もくいく展	4.0	3.5	3.8	3.5	◆幼児のために考えた学生さんたちのアイディア作品真新しさはなかったような。物を壊す子供の感覚っていうか、それが足らず既製品に見えてしまった。面白さ、たのしさに欠けているような感じ。 ◆開催の目的意識が明確であり、それを正しく効果的に伝える工夫が各所に凝らされていることが評価できた。会期中、主催者等による解説や講演会など、展示以外の発信を行うとさらに良かったと思う。メッセージ及び対象とする来館者層が明確であった点が、成功につながった。来場者アンケートの結果はいかがだったろうか。 ◆学生らの木を使った創作品が楽しかった。	3.8	3.8	3.3	3.8	◆県内の森林や木材の話題を提供していたのは秀逸である。表現を年齢問わず、より身近に感じさせようとしていた点が評価できる。大学が育成する人材（木材の知識、加工技術の習得し、それらを教育する）について、ひとつの方向性を示すことができたのではないか。 ◆大学美術館と学生の創作活動と表現活動が一体化していることを感じた。
17	撲友会作品展	3.0	3.5	3.5	2.5	◆いつもと違い、二階廊下を使った展示で、出品作品も少なかったが、作品の水準は特色あるものを感じた。中山博治さんの金、久保雅文さんの写経、原田由美子さんの文朝体等目を引いた。観覧者の視線の高さを意識した展示だった。観客が少なかったのが少し残念だった。	3.0	3.0	3.0	3.0	◆地域の文字研究者や書家の展示会、楽しく拝見した。様々な書体の書を楽しめた。佐賀の書道のレベルは高いのもっと多くの人の参加と観客が集まればよいと感じた。
18	第8回 児童生徒作品展	3.5	3.5	3.5	3.5	コメントなし	3.0	3.0	2.5	3.0	コメントなし
19	じぶんきてん	3.0	2.8	2.3	2.5	◆芸術地地域デザイン学部に進学した学生が、斬新な表現を提示する意欲的な取り組みであり、大いに評価できる。造形の練度を向上させる必要はあるが、各作家のメッセージは十分に汲み取ることができる水準であった。 ◆・石川さんのフルート演奏がよかった。渋谷ヲトメさんのギャラリートークもたのしかった。	2.8	2.0	2.8	2.5	◆本学学部では高度な芸術を学ぶことができ、あらゆる「美術知」をそなえた人材を育成することを目的としていると思うが、指導者に現時点での教育方針や成果についての初見を聞いてみたい。 ◆学生の芸術グループによる自分起点、これからの活躍が楽しみである。学生の創意工夫がみられ大学運営に資する事業だった。
20	第47回佐賀県高等学校書道教師作品展 併設 県高校臨書展生徒優秀作品	3.3	3.0	3.3	3.0	◆生徒作品と教師の作品。例年同様のそつのない展開である。 ◆大学と地域高校教員と生徒を結ぶ48回を迎えるという書道展は教師は勿論、学生の作品も水準が高かった。観客も多く、観覧者に深くアピールできた展覧会であった。	3.0	3.3	3.0	3.3	◆佐賀大美術館が、地域の芸術振興活動、この場合は書道にきわめて貢献していることがわかる。こうした作品展が大学美術館で開催できることは、佐大美術館が設立された意義深い。これからもこの展示会を佐大美術館で実施することで地域の芸術活動との結びつきはさらに強まると思う。
21	スタスタ、すとん	3.3	3.0	3.0	3.0	◆3号館までのすべてを見た。従来の日本画のイメージをくつがえすような考え方の作品は面白い。先生の指導によるものだろうが、その先、どこへ行くか迷っているようでもある。 ◆日本画進級展ということで学生の作品が展示されていた。説明というか題名や作品の意図とか解説がほしかった。	4.0	3.0	3.3	3.3	◆芸術地地域デザイン学部の学生の成長ぶりがうかがわれた。岩絵具、水干絵具、胡粉などを使いわけた作品など楽しく拝見した。
22	肖像展	2.7	3.0	2.7	2.3	◆何のための肖像展なのか分らなかった。まずは、作品自体が少ないということ。 ◆徳安さんの直正肖像原型を真近にみられて迫力があった。	3.0	2.7	2.7	2.7	◆肖像彫刻や写真などでの肖像の表現について問題提起的であった。より多くの肖像画や彫刻作品がみられるとよかった。
23	小さな芸術家たちのアート展	3.3	3.0	3.0	2.0	◆色々と取り組む工夫はある。伸び伸び元気になるけど大人が考えたものの方向である。もっとほかの幼児の作品が見れたらいい。この園が美術館でしたいという息込みはあるんだろうが、子供たちの元気さとはズレているようにも感じた。 ◆こども園の子どもの作品展。豊かな発想での作品がおもしろかった。	3.3	3.3	3.0	3.3	◆絵に親しみ創造性ゆたかな子どもたちを育てたいという園の方針が強く感じられた。
24	2023年度 佐賀大学芸術地域デザイン学部卒業制作・終了制作作品展	4.5	3.8	3.5	3.8	◆学生の成長が感じられる卒業制作展であった。映像デザインやアニメ制作の水準はきわめて高いと感じた。新しい視点と若い感性が感じられ楽しかった。印象に残った作品花束の温室、自由研究ノート、君の心性、ロゴデザイン、陽（和多みう）、音楽の器（台が白でなく赤系だったら映えた）、美少女戦士、うつる世界で（万華鏡）受験生らしい親子が参観していた。	4.3	4.0	4.3	4.5	◆芸術地地域デザイン学部の伝統が学生に息づき新たな感性が育っていることを感じた。佐賀のプロジェクトマッピングなどにも深くかかわっていると聞く。地域社会に大きく貢献している。新たな創造への芽を感じることができた。芸術デザインを通じて地域に貢献するという佐賀大学に地域芸術デザイン学部ができた意義がみえる展示だった。
25	佐賀大学学生書作展	3.0	3.0	3.0	2.5	◆書道同好会という学部横断的な指導者の書作展示であった。漢詩からかな作品まで、それぞれの個性豊かな作品が多かった。料紙制作から挑戦している作者もみられ、今後の伸長が期待できる。	3.0	3.0	3.0	3.0	◆学生の研究成果発表の場として教育研究に資する事業であった。卒業生がそれぞれの進路において地域貢献してくれることを期待したい。クラブ活動の発表の場としての美術館の利用拡大もより進めていく方向かと感じた。
26	刺繍をほどく	3.7	3.7	3.0	3.0	◆指導の先生の交替とかもあり洋画専攻の学生さんは不安定だったと思う。がんばった作品なんだろうが、全体的に元気がなく迷走しているようであった。時間もたりないだろうが、めげずに自分とアートときちんと向き合っていって欲しい。 ◆西洋画専攻生の作品展だった。 作品の成り立ち、発想のもとを刺繍をほどくように解体して作品に仕上げていく過程がうかがえた。作品の水準の評価は難しいが、楽しい作品があった。（散歩、子どもたちこんにちは、ある少女の物語など）	3.7	2.7	4.0	3.3	◆西洋画の新任の先生を迎えて初めての作品展のようだ。前任の先生の画風に強く影響された作品も少なくなかった。過渡期にある学生のそれぞれの創意に期待したい。
27	芸術地域デザイン学部8期生 すえひろがり	3.0	2.0	3.0	2.0	コメントなし	3.0	2.0	2.0	3.0	コメントなし